

2016（平成28）年度

学校法人 ルーテル学院

事業計画書



ルーテル学院大学



日本ルーテル神学校

## 目 次

基本方針	1
【1】教育	1
【2】研究	1
【3】学生支援・就職	1
【4】国際化	2
【5】学生の受け入れ	2
【6】組織運営	2
【7】経営	2
【8】自己点検・評価	3
【9】施設・設備	3

## 基本方針

本学は、「キリストの心を心とする」という建学の精神を掲げ、キリスト教を基盤とした人格教育のもと、ルターの宗教改革の精神に基づき、特に心と福祉と魂の高度な専門家を養成することを目的としてまいりました。

本学が置かれている極めて厳しい外部環境の中で、建学の精神に立脚し、ミッションステートメントに掲げる教育的使命と教育目標のいっそうの実現を目指してまいります。

本学が存続しさらに発展していくために、全学的共通理解とコンセンサスの上で、何を優先課題とし、何に人的、財的資源とエネルギーを注入すべきかについて、中期計画を基軸とした総合計画を立て、それに基づき 2016 年度の計画を実施してまいります。

### 【1】教育

本学の使命（ミッション）を達成するため、教育研究等における質向上への取り組みを行ってまいります。

(1) 対人援助に必要な人間理解におけるキリスト教主義の教育を推進

(2) 学部教育の充実

- ・2014 年度に組織改編を行い、1 学科 5 コース制としてスタートをしました。教養科目と専門科目のバランス、カリキュラム構成や取得可能な資格、時間割等について検証し、履修指導など改善に向けた取り組みを更に推進します。
- ・人間福祉心理学科の完成年度に向けて、効果的な教職員の配置・採用・業務分担を行います。
- ・入学前教育や初年次教育について検証し、学生の学力の把握と学力に合わせた支援体制を検討します。

(3) 大学院教育の充実

- ・博士前期課程・修士課程において、価値・理論・技術を統合して活用できる高度な専門家の養成を継続します。
- ・博士後期課程における研究者養成や、理論と実践を統合できる現場の専門家の養成を推進します。

### 【2】研究

社会福祉・臨床心理・キリスト教領域を総合的・包括的に研究できる拠点として研究環境の充実と強化を図ってまいります。

(1) 社会や地域に貢献できる研究体制

- ・社会や地域のニーズに応える研究や国際的ネットワークを生かした研究を推進します。
- ・研究成果をより積極的に社会や地域へ還元を進めてまいります。

(2) 附属機関の研究活動

- ・包括的臨床コンサルテーション・センター、臨床心理相談センター、ルター研究所、コミュニティ人材養成センター、デール・パストラルセンターのそれぞれ活動を充実いたします。

### 【3】学生支援・就職

学生（学修）生活に関する環境や相談体制を整え、社会人としての自立に向けた支援を行うことで、建学の理念を基盤とした人間的成長を全学的に促進してまいります。

(1) 学生経済支援制度

- ・大学独自の奨学金制度（貸与・給付）等、各種経済支援制度の改善に向けて見直します。

(2) 健康管理支援体制

- ・課題を抱えた学生について学生相談室、健康管理室などの連携を強化し、相談体制を整備します。

(3) 就職支援体制

- ・資格を取得する学生への支援を継続し、さらに強化します。
- ・一般就職を希望する学生への支援を継続し、さらに強化します。
- ・企業、求人、インターンシップの開拓を強化します。

(4) 障がい学生支援体制

- ・学生相談室・健康管理室・就職支援委員・障がい学生コーディネータとの連携を推進します。

**【4】国際化**

国際性を育む大学、大学院、付属研究所として国際交流活動を積極的に推進するための運営体制、およびプログラムを整備し充実してまいります。

(1) 国際交流体制の整備

- ・国際交流を推進するための学内運営システムを構築します。
- ・本学の特色を活かした国際交流プログラムを戦略化します。

(2) 国際交流プログラムの充実

- ・教育カリキュラムとしての海外研修、海外インターンシップを開発します。
- ・交流協定に基づく留学プログラムを充実いたします。

**【5】学生の受け入れ**

アドミッションポリシーに基づき、学生募集活動を展開してまいります。

(1) 学生の受け入れに関する体制

- ・受験生の能力・適性を多面的に評価する方法、多様な背景を持つ学生の受け入れ等について点検を行い、適切に見直します。
- ・アドミッションポリシーに基づく、入試のあり方を検討します。

(2) 広報活動

- ・入学志願者を確保する効果的な広報戦略を検討し、広報活動の改善を図ります。

**【6】組織運営**

組織運営に関して継続的な改善、効率化を図ってまいります。

(1) 組織運営

- ・学長のリーダーシップの下で戦略的な資源配分を行う体制を整えます。

(2) 事務体制と運営

- ・2015年に実施した事務組織再編の効果を検証し、さらに事務組織の強化を図ります。

**【7】経営**

経営基盤を強化し、財務内容の均衡を図ってまいります。

(1) 財務計画

- ・学科再編の完成年度となる 2017 年度以降の適切な人事計画を進めるとともに、修繕工事、設備更新等を財務状況に応じて計画的に実施し、収支均衡に努めます。

【8】自己点検・評価

内部質保証に資する、自己点検・評価の体制を整備してまいります。

(1) 内部質保証

- ・自己点検・評価の方法を効率化し、評価結果を有効に活用する体制を整備します。

(2) 情報公開や情報発信等

- ・全学の教育研究等に関する情報を一元的に収集する体制を整備します。

【9】 施設・設備

キャンパスの快適な学修環境・自然環境の維持発展に努めてまいります。

(1) 施設設備の整備・活用

- ・キャンパス整備や、総合的な学内情報基盤のためのマスタープランを検討します。
- ・多様な自主的学修スタイルに対応した設備を充実させ、誰もが利用しやすい施設や設備を整備します。また地域貢献を主眼に、体育施設の地域住民等への開放について検討します。

以上